

緑のカーテン

みなさんは「緑のカーテン」を知っていますか。緑のカーテンとは、植物で作られたカーテンのことです。よく、蔓^{つる}の植物が使われます。代表的なものは、アサガオやジャスミンなどで、キュ



町で見つけたゴーヤの緑のカーテン

ウリも使われたりします。緑のカーテンは夏の強い陽射しを遮^{さえぎ}り、室内の気温を低く保つためのものなので、たいてい建物の南側や西側に植えられます。家だけでなく、学校、図書館や病院などでもよく見られます。

4～5月ごろ苗^{なえ}や種を植えるとそれが育ち、夏の暑い時期にカーテンとなって人や建物を暑さから守ってくれます。ある統計によると、緑のカーテンが窓にあると室内の温度は4～5度低く、壁やバルコニーの前にあると10度も涼しいそうです。涼しいとクーラーを使う必要がなくなるのでお財布にも環境にもやさしいのです。また、緑のカーテンは植物ですので、建物を涼しくするだけでなく、CO2の削減にも貢献しています。



琉球アサガオの緑のカーテン



琉球アサガオの花

緑のカーテンには、アサガオの花やゴーヤという野菜がよく使われます。アサガオのような花のカーテンはその家の人だけでなく、道行く人の目も楽しませてくれます。野菜のカーテンの実はおいしく料理されて、食卓に並びます。例えばゴーヤ（ウリ）はゴーヤチャンプルーにしたり、サラダやお漬物にしたりしておいしく食べることができます。風船のような実になるフウセンカズラや、小さいスイカのような実になるスズメウリは部屋のデコレーションにすることができます。



↑ ゴーヤ ↓ ゴーヤチャンプルー



←フウセンカズラ

→
スズメウリの
リース



ふつうのカーテンは古くなるとゴミになってしまいますが、緑のカーテンは植物なので、秋に土の上に置いておけば分解され、他の植物の肥料となります。採れた種は次の年の緑のカーテンに使えますから取っておいてください。

このように緑のカーテンは夏を涼しく過ごせるようにしてくれるだけでなく、私たちの目も舌も楽しませてくれ、環境にもとてもいいものなのです。一石二鳥どころか、一石三鳥なのです。

「緑のカーテン」という言葉は 20 年ぐらい前から一般的に知られるようになりましたが、実は、日本では江戸時代から似たような習慣がありました。江戸時代の人々は家の軒先に紐をつるし、その紐にアサガオの蔓をはわせ、花を楽しみながら涼んでいたそうです。

みなさんもぜひ、緑のカーテンをやってみてください。

(921 字)

(2023.6 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.